

訪問看護ステーションにおける医療 DX 推進体制について

1. 医療 DX 推進の体制に関する事項

うちケア訪問看護リハビリステーション（以下、事業所という。）では、デジタル技術を活用して業務の効率化と質の向上を図り、現場の負担軽減や迅速な情報共有、ケアの質の向上を目指し、以下の体制を整える。

2. 医療 DX 体制と取り組み内容

1) 電子カルテシステムの導入

目的: 利用者の医療情報や看護記録をデジタルで一元管理し、職員間や医療機関との情報共有を迅速に行います。

効果: 情報の共有と管理がリアルタイムで行えるため、医師や他の医療機関と連携が取りやすくなります。看護計画の見直しやケア内容の記録が効率化し、よりの確な看護サービスの提供が可能です。

2) モバイル端末やクラウドサービスの活用

目的: 訪問看護中にタブレットやスマートフォンを利用し、現場でリアルタイムに情報を記録・確認することができます。また、訪問スケジュール管理、記録の音声入力など、デジタルツールを活用して業務の効率化を図ります。

効果: 訪問先でも即座に利用者の情報を確認でき、記録をすぐに入力できるため、ケアの精度が向上し、事務作業の効率も上がります。

3) ICT（情報通信技術）による遠隔医療支援

目的: テレワークやオンラインミーティング、電子メールやチャットツールを活用し、職員間のコミュニケーションを強化します。また医師や専門職が遠隔で看護師を支援したり、利用者やその家族とオンラインで面談を行う等の可能性が広がります。

効果: 情報共有の迅速化、業務効率の向上を図り、利用者へのサービスの質を向上させます。また、地域医療資源の不足を補い、医療・看護の提供を途切れることなく継続できる可能性が広がります。

4) データの活用によるケアの最適化

目的: バイタルサイン、症状、介護記録などのデータを集め、分析することで、利用者一人ひとりの状態に応じた最適な看護計画を作成し、質の高い看護サービスを提供するとともに、ケアの質を定量的に評価・改善する仕組みを整えます。

効果: 利用者の状態変化にいち早く対応し、予防的なアプローチを取ることができます。

5) 職員の ICT リテラシー向上

目的: 職員がデジタル技術を使いこなせるように、ICT 研修を定期的に実施します。

効果: 職員全体の IT スキルが向上することで、業務の効率化とサービスの質の向上が実現します。

6) マイナ保険証の利用促進

目的: マイナ保険証を用いることで、保険情報を手続き不要で即座に確認でき、時間短縮

や手続きミスの削減につながります。

効果：利用者の病歴やアレルギー情報をマイナ保険証で確認できるため、緊急時の対応がより適切かつ迅速に行えます。

3. 質の高い訪問看護を実施するための情報取得・活用

情報取得の具体的内容

1) 利用者情報の詳細な収集と管理

目的：利用者の健康状態、生活環境、家族構成、医療機関での治療内容など、包括的な情報を取得し、個別に看護計画を作成します。

効果：利用者の全体像を把握し、適切なケアの計画と実施ができます。

2) 他職種との連携と情報共有

目的：医師、理学療法士、介護職、薬剤師など、他職種との密な情報共有を通じて、利用者の健康状態を総合的に評価します。

効果：利用者のケアに関する多角的な視点を得られ、より質の高いサービスを提供できます。

3) 定期的なカンファレンスの実施

目的：定期的に職員間で利用者のケア内容や状態について話し合い、情報を共有し、ケアの方針を見直します。

効果：職員全体での情報共有がスムーズに行え、利用者に対するケアの質が向上します。

4) 利用者・家族とのコミュニケーション

目的：利用者やその家族からの情報を積極的に収集し、ケアの質を向上させるためのフィードバックを得ます。

効果：利用者や家族の希望や意見を反映したケアが実施でき、満足度が向上します。

5) 最新の医療・看護知識の取得

目的：職員が最新の医療技術や看護理論に基づいてケアを提供できるように、研修や勉強会を定期的に行います。

効果：最新の知識と技術を取り入れることで、質の高い看護サービスを提供できます。

情報活用の具体的な内容

1) 看護計画の作成と見直し

利用者の状態変化や家族の意向に応じて、柔軟に看護計画を見直し、適切なサービスを提供します。

2) データの分析と評価

収集したデータを定期的に分析し、訪問看護の効果や問題点を評価し、改善に活かします。

3) ケアの標準化と質の向上

ベストプラクティスを基に、ケアの標準化を図り、サービスの質を均一に保ちます。